

2023 年度外部評価委員会評価を受けて

神戸女学院大学

学長 中野敬一

FDセンターディレクター 川瀬雅也

このたびは、2023 年度の本学自己点検・評価活動について、詳細かつ的確な点検・評価、および、ご助言・ご提案をいただき、たいへんありがとうございました。ご指摘いただきました点を真摯に受け止め、今後、本学の質の改善に活かしてまいります。

各組織へのご指摘については、本年 11 月末に、各組織からの回答を自己点検・評価システム上で公開する予定です。ご確認いただきますようお願い申し上げます。

また、総評におきましても、本学の活動全般について多岐にわたるご指摘、ご助言、ご提案をいただきました。ここでは、この総評につきましてご回答申し上げます。

全般的に自己点検・評価活動は適切かつ順調になされていると評価いただき、大変ありがとうございます。各組織の説明記述、また、自己評価委員会および大学企画評価会議による点検・評価も適切だとの評価をいただきました。今後も適切な点検・評価を継続すると同時に、それを大学の質の改善に繋げていくように努力して参ります。

一方、自己点検・評価報告書の記載をめぐっては、いくつか改善すべき点をご指摘いただきました。ご指摘に即してご回答いたします。

1. まず、記述・根拠資料のばらつきについてですが、今までもご指摘いただきつつ、なかなか改善に至っておりません。この点については、今後、FD センターにて、記述・根拠資料の統一についての一定の方針を作成し、自己点検・評価報告書の記入説明会の際に、各執筆担当者に周知することで、改善をはかっていこうと考えております。
2. また、組織によっては、計画の実施のみで満足し、計画遂行の結果や効果について適切な点検・評価ができていないとご指摘いただきました。計画の遂行だけでなく、その効果までもしっかりと点検・評価し、実効性の低い計画については、次年度に適切な見直しを行なうことは、大変重要なことかと存じます。この点についても、やはり、自己点検・評価報告書の記入説明会のおりに各執筆担当者に周知したいと考えています。
3. 「教育研究環境の適切性」の根拠資料として、教員や大学院生の業績を提示すべきだとご指摘いただきました。教員の業績については、毎年、FD センターが、全教員の前年度の業績をとりまとめ、「専任教員教育・研究業績報告集」としてホームページに公開しております。しかし、この公開が例年 11 月となっており、自己点検・評価報告書の執筆に間に合いません。今後、「専任教員教育・研究業績報告集」を根拠資料として利用できる工夫について検討していきたいと考えております。また、大学院生の業績についても、根拠資料として利用できるよう、検討を進めてまいります。

4. PDCA サイクルが同じ段階を繰り返し回っている委員会活動があるをご指摘いただきました。当該の組織については、組織の性質上、中期目標の設定に適さず、そのために PDCA サイクルが同じ段階をまわっている状態になっているものと思われます。そのため、来年度以降、これらの組織については、B 表のみによって活動を評価するよう、先般の企画評価会議にて決議されました。

なお、今回、総評でのご指摘はありませんでしたが、外部評価委員会の際に、自己点検・評価システムにおいて、各組織と外部評価委員で、評価している内容が異なるにも拘わらず、同じ評価記号（S, A, B, C）が用いられていることについて、問題点をご指摘いただきました。その後、この点について検討し、来年度以降は、外部評価委員のみなさまには、各組織とは別の評価記号（5～1）で評価を行なっていただくように改めましたことをご報告いたします。

さらに、今年度の総評においては、第四期外部評価委員の任期終了にともなって、本学の教育研究活動や自己点検・評価活動に関する全般的なご提案をいただきましたので、この点につきましてもご回答申し上げます。

- （1）広報活動の成果に関する点検・評価の充実についてご指摘いただきました。この件については、ご指摘の内容を入学センター・広報室と共有するとともに、大学としましても、単に広報活動を展開するだけでなく、その後の広報成果についても点検・評価できる体制を整えていきたいと考えております。
- （2）教育研究のナレッジの質の向上のための「他流試合」、および、そのフィードバックについてご指摘いただきました。ご指摘の通り、本学は、もっぱら学内に目を向けがちで、大学の対外的、社会的役割を意識した諸活動（教員個人の研究、外部資金の獲得、産官学連携、地域連携など）に積極的に取り組む姿勢に弱さがあるように思われます。確かに、研究費の金額ベースでは他大学に比べても十分に保証されていると思われませんが、大学として、教員の研究活動、社会貢献活動、学外との連携活動等を積極的に促進し、支援する姿勢、および体制には弱さがあると言えます。ご指摘いただいたとおり、ナレッジの質は「大学の生き残り」を考えたときにも、極めて重要な要素です。今後、大学をあげて、「他流試合」を促す姿勢を強化し、そのための支援の体制の整備についても、検討していきたいと考えています。
- （3）SWOT 分析、および KPI の設定による点検・評価についてご提言いただきました。本学は、内部や外部の諸状況を客観的な手法を用いて分析し、そこから、社会や教育界における本学の位置づけを具体的に評価して、それを大学運営・経営の実効的な改善策につなげていこうとする姿勢に弱さがあると言わざるをえません。また、その改善策に関しても、明確な目標を設定し、その目標の達成にいたるロードマップを作成して、そのつど目標達成の進捗度を測りつつ、着実に目標を実現するための体制が整

っていない状況だと言えます。

現在、学長室（FD センター）では、学内の教学上の諸状況について客観的な分析・評価を実施するための教学 IR の実効的な仕組みの構築中ですが、今後は、学長室（FD センター）を中心に、収集する情報の対象を学外にまで広げ、収集した情報をもとに、学内、学外の客観的状況について評価・分析を行ない、それにもとづいて、改善策を構築できるような体制を整えられるよう、努めていきたいと思います。その際、SWOT や KPI などの考え方を取り入れることも、検討していきたいと考えます。

（４，５，６）各組織の記述において、各年度の重点項目や各組織の中期計画との対応を明示すること、また、重点項目や中期計画に対する達成度を点検・評価できるようにすること、などについてご指摘いただきました。この点については、すでに企画評価会議において協議を始めており、可能なかぎり早急に、ご指摘いただいた体制をとれるように改善を目指していきます。

また、各重点項目に対する各組織の取り組みを串刺し的に点検できるシステムについてですが、これを実現するには、自己点検・評価システムそのものを再構築する必要がでてくるようにも思います。今後、そのような仕組みを構築することができるかどうか、FD センターにて検討していきたいと考えています。

（７）本学の自己点検・評価活動とその意義を全教職員に周知すべきとのご指摘をいただきました。この点については、今年度から、大学の各部署の取り組みを全教職員で共有できる場として SD・FD カンファレンスを実施することになっていますので、今後、そうした場を活用して、本学の自己点検・評価活動とその意義、および、有効活用の可能性について、全教職員で共有できるようにしていきたいと考えます。

外部評価委員のみなさまには、今年度も、多くの項目について点検・評価いただきますとともに、本学の活動および取り組みについて、詳細にご検討いただき、問題点についてのご指摘をはじめ、諸々のご助言、ご提案をいただきました。あらためて感謝申し上げます。ご指摘いただいた点について、本学全体で共有するとともに、改善にむけて全学的に取り組んでいく所存であります。今後とも引き続き、本学に対して、ご助言・ご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。